

《性的マイノリティの方々の意見交換会》

- 1 実施日
令和4年6月13日（月）
- 2 出席者
7名
- 3 主な意見（日頃感じていることや課題等）

当事者が抱える困りごと
① 周囲の理解不足のため、自己肯定感が持てなかったり、自分のセクシュアリティの受け入れに時間がかかり、どう生きていったらいいかわからないと思う10代20代の若者がいる。
② 当事者にとっては、異性愛者が当たり前の世の中でロールモデルが見つけれないといった相談がある。
③ 同性パートナーからの暴力については、配偶者からの暴力、異性からの暴力ではないので、行政に取り上げてもらえず、被害者として保護されない。話を聞いてくれるだけでも違うが、なかなか支援につながっていかない。
④ 教育現場では、LGBTの言葉の意味は理解していても、配慮の仕方を理解していないことも多い。
⑤ 10代の子がせっかく親にカミングアウト※をしても、土地柄などから家族にすら受け入れてもらえず、家族関係すらこじれてしまう事例が出ている。 (※)カミングアウト：自分の性自認や性的指向を他人に打ち明けること
⑥ 世の中が、当事者に対して、自分らしく生きられるようにとカミングアウトを促している傾向にあると感じる。現状はクローゼット※の人の方が多く、カミングアウトを望んでいるわけではない。 (※)クローゼット：社会の差別・偏見や周囲の無理解から自分のセクシュアリティを隠さざるを得ない状態
⑦ 災害時に同性パートナーは親族ではないため、遺体の引き取りができない事例があったと聞いている。また、避難所でのトイレや風呂などの利用の問題や支援物資である下着やナプキンを受け取りづらいという事例もあるようだ。
⑧ ジェンダーレス制服を導入するなど、学校での取り組みが進んでいるように見えるが、当事者にとって使いやすい制度となっているかの評価も必要だ。

当事者に必要な支援

- ① 電話相談のほか、テキストでのやり取りが一般的になっている若年層が相談しやすいように、月に1回でもLINE相談を取り入れてほしい。
- ② 札幌市からの広報や情報発信にあたっては、当事者のコミュニティを活用して行うことも検討してほしい。
- ③ パートナーが亡くなった時の遺体の火葬手続きなど、札幌市において、パートナーができる手続きを増やしてほしい。
- ④ パートナーの子どもの保育所の送迎や病院の受診ができるようにしてほしい。
- ⑤ パートナーの親の介護の問題もあるため、介護施設や病院においては、パートナーも家族と同様に扱ってほしい。

偏見や差別をなくすための効果的な取り組み

- ① LGBTフレンドリー指標制度の登録企業が本当にフレンドリーなのか確認してほしい。評価項目の見直しや、登録後の取組状況について確認をしてほしい。
- ② 札幌市が、広告や発行物など何らかの情報発信をする際は、当事者が読んでも納得する文章表現を使って、正しい知識・情報を提供してほしい。
- ③ 「多様性」＝「個性の尊重」であり、相手の気持ちを尊重することを受け入れるが重要だ。カミングアウトできない人もいること、カミングアウトしていないから制度を使えない人もいるということも、念頭においてほしい。
- ④ LGBTの配慮に取り組む学校をモデル校として取り上げ、他校にも紹介することで、保護者への説明や配慮の仕方など現場で対応に困っても相談できる仕組みが作れるのではないかな。
- ⑤ 当事者が抱える心の孤独は想像以上に重いため、当事者以外の方が理解したというのは難しいと思うが、歩み寄ることはできると思う。

その他

- ① 第4次計画の「男女共同参画」にトランスジェンダーは入るのか。多様性、ジェンダー平等、人権尊重について落とし込んでいるのか。男性でも困っていて助けを求めている人がいるので、「女性を救い上げる」のではなく「みんなのための」という表現ができるといいと感じる。
- ② 「男女共同参画」は男性社会に対して女性がどう生きやすくするのかという視点で積み上げられてきた議論で、どうしても「男女」となり、圧倒的に「女性の立場」の話になり、性的マイノリティを加えるのには無理がある。他の自治体のように別部門で取り扱うなどそろそろ考えて欲しい。